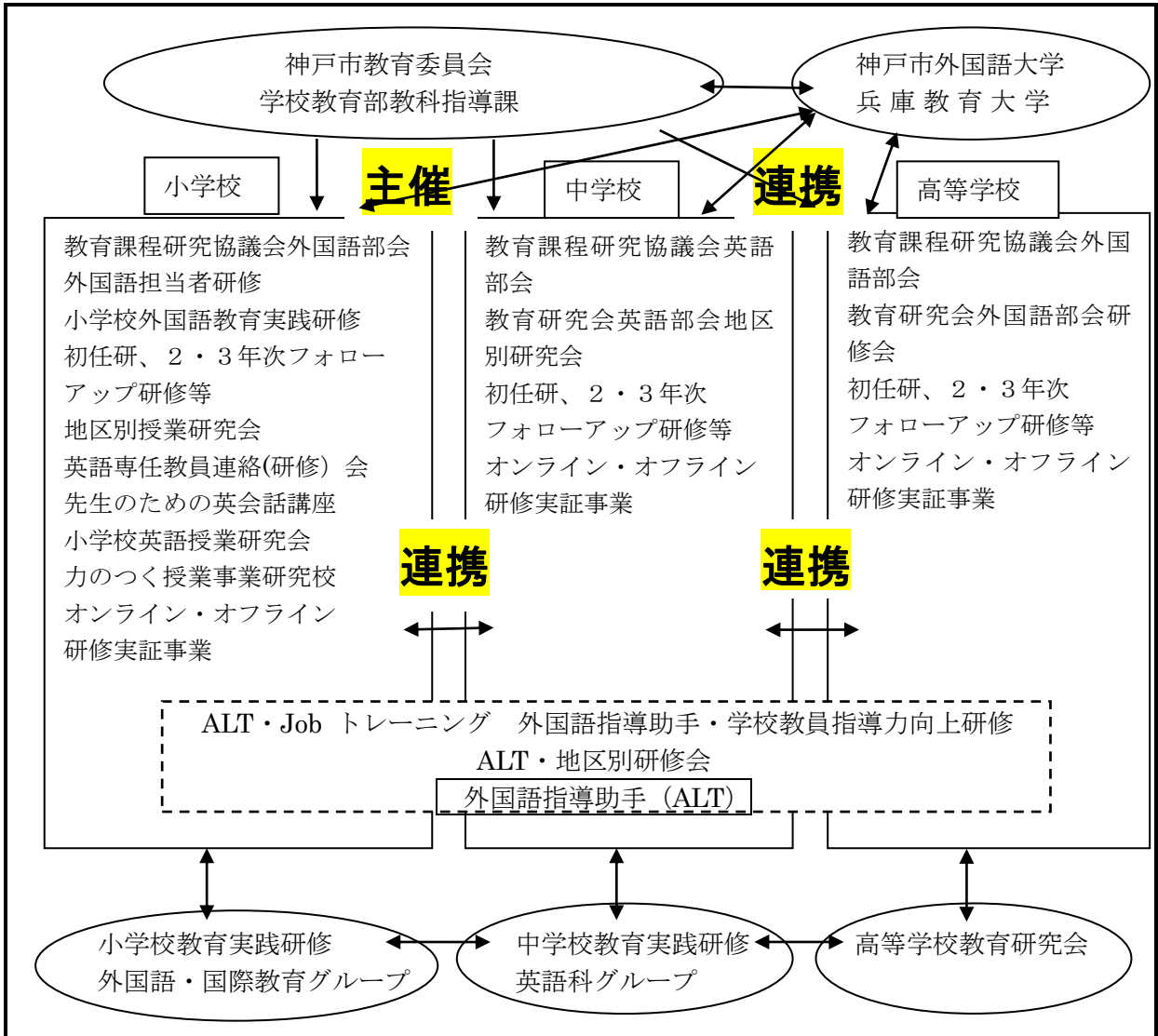


神戸市英語教育改善プラン

実施内容

(1) 研修体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

(1) 国際都市 神戸を担うグローバル人材の育成
 <育成を目指すグローバル人材像>
 自国の文化や伝統に誇りを持つとともに、国際的視野に立ち、外国の人とも積極的にコミュニケーションを図りながら、ともに未来を創造していく神戸の子供たち
 <育みたい能力・態度等>

- 実践的なコミュニケーション能力
 - ・外国の人と積極的にコミュニケーションできる英語力
 - ・相手の意図や考えを的確に受け止め、自分の考えを説明したり相手を説得したりする能力や態度
- 異なる言語、文化、価値観等を乗り越えて新たな関係を創造しようとする態度
- 自国の文化への理解に基づく自覚と誇り
 - 英語に親しむ神戸の小学生 *Let's enjoy English!*
 - 英語が話せる神戸の中学生 *Let's speak English!*
 - 英語が使える神戸の高校生 *Let's use English!*

(2) 高等学校における現状と課題

<現状>

- ・全日制5校、定時制3校からなり、各校が特色のある教育課程に合わせた英語教育を展開
- ・令和元年度までの状況として、「求められる英語力を有する生徒の割合」が54.5%、「求められる英語力を有する英語担当教員の割合」が81.9%と、共に文部科学省目標を達成しているものの、本市の目標は達成できなかった。
- ・「外国語を使って何ができるようになるか」という観点（「CAN-DO リスト」形式）により学習到達目標をせっている取組の実施割合は80%を超えているものの、学習到達目標の達成状況を把握している学校の割合は50%台にとどまっている。
- ・外国語表現の能力を評価するためのスピーキングテストやライティングテスト等のパフォーマンステストの状況について、学校差が大きく開いており、全体での実施率は未だ5割に達していない。
- ・授業における生徒の英語による言語活動時間の割合も、学校間に差があることから、50%以上の時間を行っている割合が69.4%であった。
- ・ALTについては全校配置できており、全ての学校において、授業中の言語活動は基より、外部試験対策やプレゼンテーション指導など十分な活用ができています。

<課題>

- ・新学習指導要領実施を機に、英語を用いた統合的な言語活動を行うことにより、学習内容を定着させるとともに、学習の深化、高度化を図る。
- ・指導と評価の一体化をさらに進める点においても、CAN-DO リストを用いた学習到達目標の達成状況の把握については、計画的に実施していく。例えば、パフォーマンステストによる評価の時期と方法を単元計画に組み込んだ授業実践を積極的に推奨していく。
- ・系統だった英語教育を実施していく上で、小中校の連携は不可欠である。現状は十分な連携活動が実施できていないので、English Festival等の行事を利用し、小中校の交流機会を設けることから取り組んでいきたい。

<R2年度改善方策及び目標>

より実際のコミュニケーションの場面を設定し、「読んで 考えて まとめながら 書く」活動などを取り入れるとともに、「話し合う 発表する」などの言語活動の機会を充実させ、学びを深めさせる。特に「話すこと」「書くこと」の能力の向上を意図した統合的な言語活動を工夫する。

中学校や高等学校での学習内容に繰り返し触れることのできる様々な言語使用場面を設け、活用を通して学習内容の理解・定着が図れるよう配慮する。

学習到達目標をCAN-DO リストの形で設定し、教員間で共有することで、指導・評価方法の改善に役立てる。

【目標となる指標】

項目	2018	2019	2020	2021	2022
求められる英語力を有する生徒	46.3%	54.5%	55%	55%	55%
生徒の英語による言語活動時間の割合 (50%以上)	53.1%	69.4%	80%	80%	80%
求められる英語力を有する英語担当教員の割合	53.3%	81.9%	80%	80%	80%
英語担当教員の英語使用状況 (50%以上)	57.8%	67.8%	80%	80%	80%

(3) 中学校における現状と課題

<現状>

- ・令和元年度までの状況として、「求められる英語力を有する生徒の割合」が50.1%となり、文部科学省目標を達成することができた。これまでの取組がようやく結果につながってきているのだが、引き続き生徒の学習状況等を把握、分析し、更なる向上を目指していく。
- ・「求められる英語力を有する英語担当教員の割合」が39.2%となり、文部科学省目標を達成できていない状況にある。長期休業中の集中研修やオンライン等を利用した継続的な研修体制を整え、教員の英語力向上を目指していく。
- ・授業における生徒の英語による言語活動時間の状況については50%以上の時間を行っている割合が第1学年では74.6%、第2学年では65.8%、第3学年では62.9%と学年が上がるにつれて下がる傾向にある。全国の結果も同じ傾向にあるものの、言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質、能力の育成を目指す上で、新学習指導要領実施を機に、更なる改善策が必要である。
- ・ALTについては全校配置できており、全ての学校において、授業中の言語活動は基より、国際理解教育や生徒のスピーチ、プレゼンテーション指導など十分な活用ができています。

<課題>

- ・求められる英語力を有する生徒の割合向上については、外部試験活用などに積極的に取り組み、的確に生徒の力を分析した上で、効果的な指導を継続して行っていく。
- ・英語教育推進地区においてALTを重点的に配置し、小中連携の強化を目指した取組を行ってきた。その取組の一つとして、本市独自のパフォーマンステストに当たる **Speaking Challenge** を構築してきた。この内容をさらに改善し、全市での実施を目指し、言語活動の充実を図っていく。
- ・生徒が学んだ英語力を活用できる場面を増やしていく。ICT機器を利用し、普段接したことのないALTに自分たちの学校について紹介したり、調べたことを発表する等の機会を設ける、また **English Festival** 等の行事をさらに活性化し、生徒が **output** できる機会を増やしていく。

<R2年度改善方策及び目標>

4技能を統合した言語活動の充実を目指す。具体的な使用場を設定した言語活動の中で、学習した内容を繰り返し活用することによって定着を図る。聞いたり、読んだりしたことについて、話す・書くなど、統合的な言語活動につなげていくために、授業形態の工夫を行う。

学習到達目標を **CAN-DO** リストの形式で設定し、明確にする。各単元においても「英語を用いて何ができるようになるか」という学習到達目標を **CAN-DO** リストの形で設定し、教員間で共有することで、指導・評価方法の改善に役立てる。

【目標となる指標】

	2018	2019	2020	2021	2022
求められる英語力を有する生徒	31.5%	50.1%	55%	55%	55%
生徒の英語による言語活動時間の割合 (50%以上)	76.4%	67.7%	80%	80%	80%
求められる英語力を有する英語担当教員の割合	32.7%	39.2%	50%	50%	50%
英語担当教員の英語使用状況 (50%以上)	60.3%	59.8%	80%	80%	80%

(3) 小学校における現状と課題

<現状>

- ・神戸市外国語大学と連携して外国語研修を実施（2日間）（H20～各校1名以上参加）
平成30年度～31年度は、新学習指導要領実施に向け、より実践的な内容へ改編し継続。
令和2年度は、「指導と評価の一体化」をテーマに研修を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症対策のため中止。
 - ・指導力及び英語力向上の研修を複数実施
 - ・パフォーマンス評価（スピーキングチャレンジ）を作成、試行実施
 - ・担任が中心となって外国語授業を進めることを基本としている。
 - ・英語専科教員の配置や教科担任制による英語授業の推進を実施
（英語専科教員37名61校に配置・教科担任制による指導9名9校）
英語専科教員対象の研修を年3回実施。
英語専科教員1年目教員の授業参観及び指導助言。
 - ・教員採用においては、小学校で英語教育を推進できる教員を積極的に確保するため平成29年度実施の教員採用試験から、新たな選考区分である「小学校英語コース」を設置した。
令和2年度からの小学校英語の本格実施を見据え、段階的に英語教育を推進できる教員を拡充してきた。具体的には、平成30年度実施の教員採用試験からは、全ての小学校教諭志願者に対し、専門教科の筆記試験で英語を出題している。また、本市における英語教育の推進役となる「小学校英語コース」の志願者に対しては、実技試験を実施し、英語の運用能力を確認し、実践的な指導力をもつ人材の確保に努めている。（H29 7名、H30 11名、R1 7名、R2 7名）
 - ・「指導と評価の一体化」をテーマに授業づくりや学習評価についての研修を年3回実施
（動画研修2回、集合型研修1回）
 - ・ALT増員に向け、Team Teachingガイドブックを作成
- <参考>【R1年度主な状況】（R2年度は調査を実施せず）

項目	2019(実績)	
小学校教師の英語免許状所有の状況	4.5%	183/4,071
小学校教師の英語力の状況(CEFR B2以上)	1.2%	50/4,071

<課題>

- ・ALT（令和2年度大幅増員予定→令和3年度大幅増員予定）との協働授業をより効果的に実施していく必要。
- ・小学校教師に占める英語免許所有及び英語力の状況については、決して高いとは言えないため、新規採用者等において、英語力を有する教員の確保と育成が必要。

<令和2年度改善方策及び目標>

英語教育推進リーダーを活用した研修や神戸市外国語大学と連携した研修等を活用し、教員の指導力向上と新学習指導要領を踏まえた授業実践の普及に努め、教科化における評価とALTとの効果的な協働授業について研究及び研修を推進する。

1. 教育実践研修グループと連携した評価の研究と発信

授業の中での5領域3観点の見取り場面や方法（形成的評価、記録に残す評価）、単元前半のスマールトークや単元終末のやり取りや発表など、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」を鍛える場面の設定と評価などについて研究し、発信する。

2. 英語専科教員の配置と活用と新規採用者に占める一定の英語力を有する教員の割合の向上

専科教員による授業公開や教材の共有を通して神戸市全体の小学校英語指導力向上を目指す。

【目標となる指標】

採用年度	2021(実績)	2022	2023	2024
小学校新規採用者に占める英語力の状況	11.6%	27.6%	36.2%	43.0%

3. ALTと連携した英語指導力及び英語力向上に向けた研修の実施
 小学校外国語授業の全てをALTとの協働授業で実施することを計画している。担任または英語専科教員が主導しながら、ALTを効果的に活用する授業展開について、各校の外国語担当者、英語教育中核教員、英語専科教員等を対象に研修を行い、各校で広める。
- ①小学校の授業をすべてALTとの協働授業で実施
 - ②1・2年生にもALTとの協働授業による英語に親しむ授業を実施
 - ③ALTを活用した「聞くこと」「話すこと」の評価「スピーキングチャレンジ」の実施
 - ④授業以外での活用（ALTを複数派遣する国際理解プログラム「デリバリーサービス」、校外学習「イングリッシュキャンプ」の実施（校内で実施も可））
 - ⑤ALTとの協働授業モデル動画を全市教員が閲覧可能なページにアップロードし、Team Teachingのモデルを示す
4. 神戸市外国語大学教授及び英語教育推進リーダーを講師とした研修の充実
 毎年、夏季休業中の「英語教育実践研修」において、教科化における評価場面の事例やALTとの効果的な協働授業の展開についての実践的な研修を実施する。

(3) 研修の体系と内容の具体

1 実施研修

(1) 教育実践研修グループによる公開授業及び研究協議会等の実施（小中学校）

①趣旨

市内を数ブロックに分け、小中連携や評価の研究を実施する。授業公開や研究会、資料の共有等を通して、市内全域に研修成果の普及を図る。

②研究協力校（市内小学校、中学校を予定）

③対象者 神戸市内の小・中学校外国語及び英語科教員

④実施回数 5回（研究会本番に向けた指導案検討等含む）

⑤具体的な研究内容

- ・公開授業，研究授業（神戸市外国語大学教授による指導助言）
- ・小学校で採択された教科書と中学校で採択された教科書の関連性や発展性，評価規準について教育実践研修グループの担当者中心に，小中学校の教員またALTの協力を得ながら進める。
- ・スピーキングチャレンジ（ALTを活用した「聞く」「話す」のパフォーマンス評価）の実施と成果と課題を踏まえた改編
- ・低学年における英語授業の研究
- ・イングリッシュキャンプ（ALTと1日を英語で過ごす校外学習）の推進
- ・外部連携機関を活用した国際交流プログラム

(2) 小学校外国語活動・外国語担当者研修会（小学校）

①趣旨 本市の新しい英語教育指導体制に対応し，ALTとの効果的な協働授業や低学年から英語に慣れ親しむ授業の実践演習を通して，情報共有と指導力向上を図る。

②対象者 小学校教員

③期 日 7月28日（火）教育課程研究協議会（情報共有）

11月26日（木）小学校外国語担当者会（指導力向上）

④主な研修内容

- ・新学習指導要領における外国語授業の進め方と評価
- ・ALTとの打ち合わせと協働授業（評価）
- ・情報共有と実践演習
- ・各校での周知に向けて

⑤研修会参加者へのアンケート評価等により評価する。

(3) 神戸市外国語大学と連携した研修会「小学校英語教育実践研修」（小学校）

①趣旨 文部科学省新教材を活用しながら、新学習指導要領の外国語教育に関する講義及び実践的演習を通して、小学校教員の指導力向上をめざす。

②対象者 小学校教員

③期日 8月20日（木）、21日（金）

④主な研修内容

午前は講演・概論（神戸市外国語大学教授）、午後は教科書を活用した実践的内容の研修外国語教育の質の向上を目指す。午後の講師は、神戸市外国語大学教授に加え、英語教育推進リーダーが担当する。

⑤研修の評価方法

研修会の参加人数、参加者のアンケート

(4) 外国語指導助手を対象とした研修の実施（ALT、小中高）

①趣旨

外国青年招致事業、及び神戸英語指導助手事業による外国語指導助手（ALT）に対し、効果的な語学指導、英語活動ができるよう必要な知識・指導技術等の研修を行う。また、授業改善のための諸活動及び効果的な教材の開発について研究活動を行い、本市の英語教育のより一層の充実を図る。

②対象者

- ・外国人青年招致事業 ALT
- ・神戸英語指導助手事業 ALT
- ・小学校 外国語活動、外国語科担当教員
- ・中学校、高等学校 英語科教員

③実施回数

- ・「ALT 総会」 1日
- ・「ALT JOB トレーニング」 2日間
- ・「神戸市外国人英語指導助手・学校教員 指導力向上研修」 2日間
- ・ALT リーダー研修会
- ・ALT 地区別研修会
- ・新規 ALT 着任研修

④主な実施内容

- ・小、中、高等学校の教員とALTによる模擬授業を実施、及び意見交換
- ・英語科教員によるデジタル教材等の有効活用方法の紹介
- ・CELTA（英語指導者資格）を取得したALTによる実践指導講習
- ・民間機関による教授法講習
- ・ALT リーダーによる実践発表

⑤研修の評価方法

研修会参加者へのアンケート評価等により評価する。

(5) その他の研修

①教育課程研究協議会（小、中、高）

主事講話（全国主事会の内容を伝達）と実践発表。小学校は外国語担当者、中学校、高

- 等学校は英語科教員対象。（年1回）
- ②英語専科教員連絡会及び研修会（小）
市内約70校で活躍する英語専科教員約35名を中心に、指導法や評価の研究を授業公開等の研修を通して行い、その成果を発信する。専科教員対象。（年間4～6回）
- ③小学校外国語活動・外国語授業公開（小）
市内小学校を6地区のブロックに分け、授業公開及び協議会、主事による指導助言を行い、新学習指導要領を反映した授業づくりを目指す。各校の外国語担当者、中学校英語科教員対象。（年間6回）
- ④中学校教育実践研修グループ英語部会主催地区別研究会（中）
市内を6ブロックに分け、公開授業及び研究協議を実施（年間12回）
- ⑤高等学校教育研究会英語部会主催研修会（高）
研究授業及び研究協議を実施
外部講師による授業改善に向けた講演会実施
- ⑥ブロック研究会（小中）
ALT配置ブロックを基本として、市内全小中学校を27ブロックに分け、授業公開及び協議会、指導主事による指導助言を行う。各ブロック所属の小学校教員、中学校英語科教員、ALT対象。
- ⑦先生のための英会話講座（小）
ALTを講師としたスモールトークや発音の講座。小学校教員希望者対象。（年2回）
- ⑧イングリッシュサポーター研修会（小）
市内小学校で英語授業を支援するイングリッシュサポーターへの新学習指導要領や文部科学省教材についての研修。また、担任とALTをつなぐ役割について周知。
市内30校で活躍する19名のイングリッシュサポーター対象。（年3回、毎学期）

